

堀田連太郎氏の傳

日本鐵鋼協會評議員日本鑛業會副會長從四位勳四等理學士堀田連太郎氏は大正四年十二月中旬咽喉病に罹り岡田博士の診察を受け、中澁谷の自邸に療養中の處、同二十一日午前八時遂に逝去せられたり、享年五十九歳、可悼哉。氏は長野縣舊松代藩士にして、明治十四年東京大學理科大學を卒業して理學士となり、同年七月始て官途に就き農商務省御用掛申付られ翌十五年九月官を辭し三菱會社技師となり、同社鑛山部の事業に従事し二十九年三月に及ぶ、明治二十八年歐米各國を巡回し鑛業を視察す、明治三十年一月より四月迄清國各地の鑛山を視察す、同三十年四月農商務省より鑛業に關する事項調査を囑托せらる、同年六月農商務省鑛山技監に任せらる、(高等官二等二級俸)同八月製鐵所長官心得を命せらる、同月正五位に叙せらる、同十月製鐵所長官心得を免せらる、同十一月鑛山局長心得を命せらる、同十一月鑛山局長心得を免せらる、同三十一年一月依願本官を免せらる、同七月四日製鐵事業に關する取調を囑托せらる、同九月農商工高等會議臨時委員被仰付、同三十四年再び歐米を巡回し鑛業を視察す、同三十六年八月製鐵所商議委員を囑托せらる、是より先明治三十年より四十年に亘り東京府下より選出せられて代議士となり憲政黨に屬せり、晩年に及ひては専ら鑛業界のため盡瘁せられたること斯界の普く知る所なり、特に本會の創立に關し最も熱心なる援助を與へられたり、危篤の報天聽に達するや特旨を以て位一級を進められ從四位に叙せらる。

本會は本邦鑛業界の爲又本會自身の爲、此功績ある貢獻者及良友を失ひたるに對し哀悼に堪えず、茲に其小傳を叙すること斯の如し。